

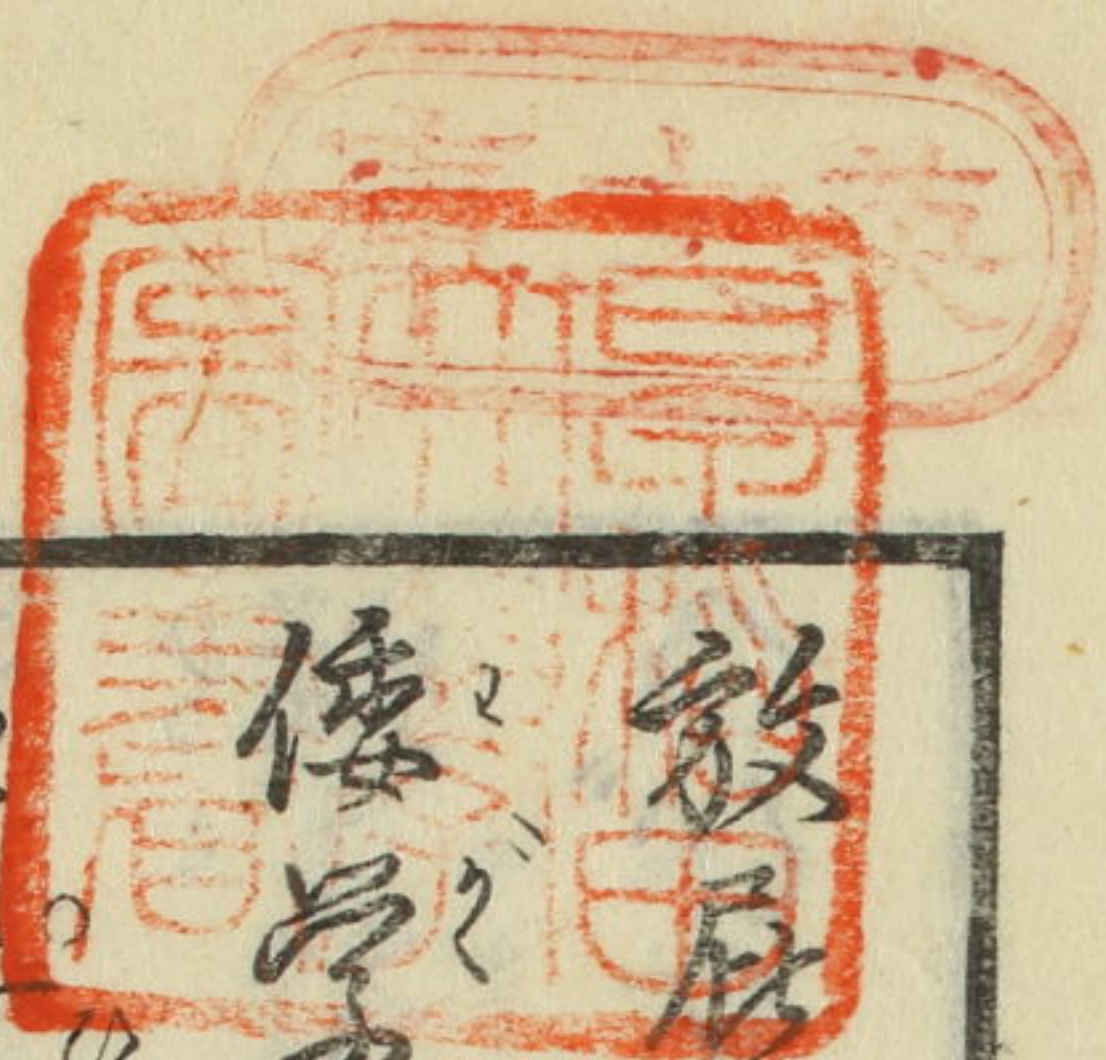
風来六韵集

貳

^ 13
3682
2



門 八 13
號 3682
卷



教后論後編自序



倭の先生曰夜ハあゆる此上略
よて畫とハ諸人目と寤也。小便
とこれ屋を撒有夜露の倭訓
起あり。或々鯨浅き所ニ寐入る

内^{ウチ}漸^{シブク}引^{ヒキ}く海^{ウミ}とち^チあ^アる時^{トキ}ハ大^{オホ}に^ニ固^{カタ}う
て^テ其^{ソノ}御^ミ氣^キと^ト擲^{ナゲ}あ^アる^ル潮^{ウシ}の^ノ引^ヒきと
干^ヒら^ラふ^フけ^ケ道^{ミチ}と^ト好^ヨま^マせ^セる^ル速^{ハヤ}神^{カミ}と
蛭^{ヒル}ふ^フら^ラひ^ヒえ^エび^ビき^キと^トら^ラふ^フえ^エび^ビき^キ
く^クび^ビき^キの^ノる^ル遠^{トホ}ま^マて^テあ^アら^ラう^ウを^ヲ

ひ^ヒら^ラほ^ホ乃^ノ通^{トウ}韻^{イン}よ^ヨう^ウ誤^アら^ラぬ^ヌ
又^マ日^ニ本^{ホン}武^ブ志^シの^ノ東^{トウ}夷^イ征^{セイ}伐^{バク}の^ノ時^{トキ}夷^イ
ども^{ドモ}早^サま^マよ^ヨ火^ヒと^トり^リけ^ケ大^{オホ}勢^セ一^{イツ}度^トよ
尻^シと^トま^マら^ラう^ウて^テ扱^アり^リれ^レハ^ハ縮^{チヂム}き^キの^ノ方^{カタ}
吹^フ塵^チ沙^{シャ}牙^ガ子^シ大^{オホ}掛^ケら^ラん^ンと^トま^マる^ル時^{トキ}

出初とぬつく投付めつぐ。夷の膏あぶら
 とまきこころよ切れはさつ逃にげ一ね。
 逃にげるこころよへき名きこころひねめへき
とつがと底消益あり。底消へきとつが。十本の油あぶら劍けん
あぶらのあぶらよえ無あるとひあり。と改あらく奥藤乃おくふじの寶劍たからけんと号なづひあり。

自みづか方かた手て物ものと薙はららせしとらひ河かこ。
 大ぬの乃の法盛ほつせいハ大おほの病やまひと出いひ。
 袖そでハ香か風かぜは痛いたまありと入いりこ體たいと
 浸ひせらぶ。昂あき時ときは湯ゆとある所ところ後のちを
 大おほある池いけと極あかか我われ川がはのありと堰せき

入れ這えのいれるふまの大激げきとく頼り
 辰つちと撒一いっふよう辰つち池いけの大おとと名名な
 せられ記せし記き録ろくと辰池いけ抄せうと
 一いつ後こう世せい平へい家けと書く書の當字あてあり利
いやくのまけようともなう
 まこと未依いおた野の々い伊い豆まめの玉一

方かた邊へんの油も丸ままて丸まま芋いも飯い
 と喰ぬみんで経辰つちをされるも辰まま
 新あらたとひつぐ山やまと山ままとり。辰つちままて辰
 と辰ままとらひ山ままと撒と山ままとらひ山
 古ふるままと山ままの新まま

あまのついでに 山に 霞の 遠きれど

あまのついでに 山に 霞の 遠きれど

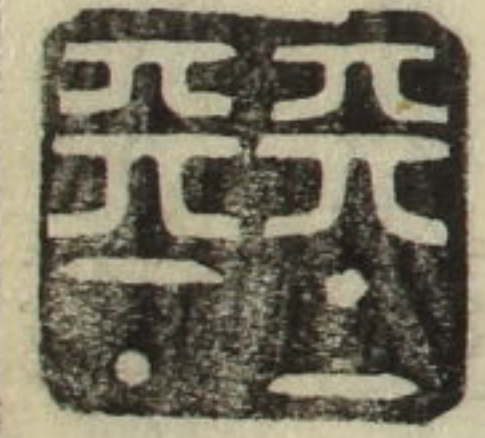
海邊よりい。磯をい。澤邊の堂

尻の縁あり。奥の二の戸二の戸。

古戸のまどとへと 刻りし家あり

人あり。人あれが 拙者ありと 倭人の
講釈の法言。出あらせよ 放出
て。は書の序とありりら づつら。

風来山人誌



放屁論後編

世の誇コト子コ剪キリ選ドリさるも浪人ウラミシの習ナラいと此コ所ソ極ガク
の伴トモ勢セ之ノ命メ。風俗フウゾク太平タイヘイ世セの日ヒなれ糸イトつえ
どド浮ウ瑠ル璃リ奉ホウある時トキハ。さもる強チカみ付ツキら
くキづゆれども。まハ血チ臭ナシい時トキ最モトのノ子コそかく
流ナる時トキよ。とんあけびらひヒガガ家イやヤ屋ウとトよ
目メよあふよ。今時イマトキの浪人ウラミシハハ浪子ウラシお織オリは破編ヤシマ笠カサ

Faint handwritten text in a rectangular frame, possibly bleed-through or a separate note.

風来山入書
Two red square seals are visible below the text.

あ子孫も法繁留從いつまでか活延るを耻ハチ
の上ぬり。但浪人のもよあふど。春さ紀の華勝魚アニカウ
と目出度海代のはは降る直ぐ下り。工農商コウノウショウ
の之民よ暮れる素餐の根よつれ。まさりの
時ハ待どぐかりれば世ハ治るど。日本ハ小國
でも唐高君より指もさうせぬハ。皆武徳を
りとりあふど。その生も者もかまハ。是ぞ

傳コトワシ子太平の世の街巷澤井を撃く飲料インゲイ
て食シヤクの授オウ燈トウ借カく禮レイハいつども。月日ツキヒは禮レイハ
いをばらよ等ヒト。修シユく太平の化クハよあま一世上イツセウ
一統イツトウ金銀キンギンよの目メ付ツキ先セン祖ゾハお馬ウマの先マ
又進スミ義ギハ金秩キンシキより堅カタく。命イハチハ塵芥チンカイより
も泥カロと踏フミ止トく高タカ名ナと彫ハく。家柄イヘカマの
子孫イソクでも。又君イミと諫コト万民マンミンと教オシえ。國家コクカの

礎と堅あせん。と心を碎く忠臣ても算盤の枡
 は今と見一急早急は金子あけぬ。二急
 言語及六沈が二進。雪隠が決らん。穴乃
 さまい仕送り用人は衆然き。相におあふ由然
 ある數代出入の町人でも。あめ素子あれは妻
 あしらの。昨日まで。今代な公。年季
 那の成とでも。今とく。持を。追送。所為

御望務御安全。様の字までとひぬらり
 出しく。二字お認る。ハ地獄の沙汰も。今とく
 今とく。敵の世の中。されば。教も。証敵。今とく
 さいゆゑ。証とく。今とく。ある。あ。証。ハ。と。じ
 又。それ。は。け。て。も。今。と。の。あ。し。よ。と。い。つ。下。の。あ
 ハ。い。づ。れ。の。結。も。連。属。と。男。劣。千。万。り
 見え。富。十。兩。が。積。入。も。今。の。他。は。あ。し。よ

つゝあふ。あふたえの斗ナゲテあふも。味アジを祈へ
目のつく世の中。げらさるちまて。暇ヒマと不
めまふ付。一家中。滄ヤリの務チイコ古と止チうて
鈴スズの務チイコ古が神カミのワカ。よやくひけを。
禮ヤリとつ字ジの令メイを編ヒジよ巻マクとつ字ジの鈴スズの令メイ篇ハク
よ令セイとつ字ジあれば。きりやうと止チまて。
あつ令セイと令セイよと。あて字ジあづも。ま令メイ

黙モク止ジかて。いづる名人達入ても金あまき
鹿生ハ度タカと。併ナニナもあちうむくと見
えらう。いつのはよりえん。江戸林田の邊
よ貪ヒシ家ゼ内ナイとつる。見ら法ハフもなき瘦ヤセ浪人
あり。抑ソメ彼カレが系ケイ圖ツ中のつを。あくも天アマ兒ツコ屋
根命ニコトの苗裔ベウエイ。大猷タイク冠クワン謙ケン是公シキウのゆき。蒼ソウ系
隆海公リウカイ。讓サシあ志シなるの浦ウラまで。海士カイシ人と野合ノカ

かの面向不背王と搦めあむ時。一日と六十度
で人まよふ備はれ。浦人よりびりより
と。誰も作られ。戯場ごとくも名もなき
をいづく伎者のよる浦人の嫡流なり。母は
浪風扇をとろとろく懐胎し。け者と産
より。貧乏神と氏神と作る。七福神と喧嘩
しく。故々とまぐい戸の伎者。されば法華

武百人。を海なる。とやうどもけ男
何一り。さるる。また。あ
ざれば。どちう。びのちう。洋磯も
よろも。浪も。流れ。海の。狐まで。
鏡の輝。鏡。魚と。欺き。見。織。ハ。吉原乃
天水。桶。より。も。智。ハ。品。川の。雪。原。より
も。海。と。こ。ひ。お。の。駄。味。香。と。千。人。ま。一。人

ハ実々マコトとキ、コンつゞハツチボウズぐホウシヤマイ教化的ホウシヤマイの報謝米メシカエでメシカエ石イシ抱ダよ
とウラおウラ僕ウラをレバイヤク女メハ美悪ウとウるク官キヤウユレ今
姫ヒメれシ士シハ賢不フ肖セウとウるク朝チヤウよク悪ウますハは
比ヒ倫リンとウるクでチキキふるク孔コウ雀ソウ綿モン鷄ケイ鷄ケイ哥カの
類ルイ高コウ金キン出デしキてキ弄ロウどモもモ外ゲ飾シヤクのヨいハらウりデ
もモ捕トらレどモ農ノウもモ司シらレどモ若ニギ草ソウ綿モン午ゴ勞ラウの
おウ手テもモあリどモ又マタ鳥カラスのオ男ヲコがウらハあリれドモ

朝アサハチ中ナカくオキ起キてキ人ヒトとウおウこト。吉キツ凶クワとウ法ホウありテ
豫ヨ告コクあリとウるク。赤セキいハといハべキとウ鳥カラス鳴ナキがウあリひ
のノいハまクしシ鳥カラスあリとウ悪ウまウとウるクとウるクまウりハけ
良リヤウ薬ヤクハハにハ苦ク。出デるク杭クワハウ打ウちテあリひハ。され
どもモ出デるクはハ死シ地チをウ君キミとウるクとウるク臣シニクとウるクとウるク
ハハ幡ハチマキ大ダイ名ナ方ホウ冠クワシヤ者シャ脱ダツ活カツのヲ虎コ見ミるクおウりハ
已イがレ性セイ根ネハハ微ミ塵ジンとウるク。風カゼ吹フきテ首コビとウるク振フル

て。一生と云はんハ折角親の老付ハ畢丸を
 争まらるる及理浪人の心易さハ一簞乃
 婦りけ一瓢の小麦酒恒の産る事代ふき。
 主人といふ贅もあく。知事といふ飯粒が足の
 裏ふむ付む。沙皮を駐せり。否る所
 ハ糸もく仕舞の。せめてハ一生を體裁。
 自由まらるるがけり。砂塵るるを幸よ

種々のユまどまぐり。仁率 日本
 銀と唐阿蘭陀へ引たぐられぬ。一ツの助
 もあらんこと。さふもつらざる仇平次とせ
 てハ寸志の 四思を報ぐるといふも
 くさ。生位あはれハ主殿を謀く
 刃の程あはる大呆と。己も知くハ居る
 るれど。夢食の蟲も好くと。生れけり



フモノガキ 不^フお^モ好^ノる^キ 堪^カり^マよ^テひ^マり^ク。楹^ヒの下^ノに^カカ^キ格^キ
 び^テ骨^ノを^シけ^ケの^キ中^ニは^モれ^キて^ハせ^スる^リ
 是^レと^シい^フも^ト人^ノの^カ體^ガより^ハ火^トと^シて^ハ。病^トと^シて^ハ
 是^レる^器と^シて^ハ仰^リ出^スり。抑^フは^テ器^ハ西^ノ洋^ノ人^ノ電^ノ
 の^リと^シて^ハ考^ヘ。一旦^ニユ^ウ夫^ハ付^ケれ^ドも。主^ノ才^ハ
 の^シ涯^ハみ^テ成^ル。三^ノ代^トと^シて^ハ成^ル。一^ノ
 り^トい^フ。阿^ラ婆^ヒ人^トい^フも^ハあ^ル者^ハも^ハ

か^ク。固^ク朝^ヲ解^セ唐^ヲ天^竺竺^ノ人^ハ夢^ヲも^ハあ^ルに^シ況^ヤ
 日本^ノ開^キ創^ト出^スる^ルを^ハ高^キ
 の^チと^シて^ハ。人^ノを^シて^ハ。或^ハ日^本を^シて^ハ。石^ノを^シて^ハ。人^ノを^シて^ハ。
 人^ノを^シて^ハ。良^クと^シて^ハ。日^本を^シて^ハ。人^ノを^シて^ハ。
 通^スる^ルを^ハ。永^ク天^下ノ^書を^ハ眼^ヲ
 一^ノ。理^ヲと^シて^ハ。推^スる^ルに^ハ。森^ノ羅^ノ万^ノ象^ヲ明^ス

うろたへざるものありきと云ひしが。今をを
んぞ始て驚く。これ燧と石扁拍と扁拍
お激するを。又ハ日輪の水精硝子を照し。
或ハ鏡に映る時火と生ず。時を臨でき
目も出散るも出。扱又負なるや。ハ
火の燐も出と火の燐も。かゝるものいふも
よほど。いろいろの理を以て火出るや。後学のお

通んと。その時之人ら。諸書と漢平と学術
と云ひ。紙上の空論と云く。格物窮理と云ふ
よりる遠も出あるなり。さうバ火の出る根元
をお目よ明けん。お出さ小冊は昔語花咲
男放屁論と題号せり。主人笑くや。ハ折
け紙屑と云ハ。四年以来ある困窮の途に
花咲男と号。んせあまて近年の大出り。

徳トクの小コ戯シ場バを撒ヒき散リて、越ヒけ放ナし論ロを詳シき
あり。今年コトシまゝ、采ウチ女メノ原ガハラを出デて、福フク平ヘイと
名ナを奪ヌつ。おけ者モノの力チカラの上ノと、父チチの仇カタの
玉タマ吉キチ世セの、猪イノ人ヒト。佐サ次ジ多タ勝シヨウと、若ワカ者モノなり
一ヒト年ネン來キ多タの猪イノ様サマと報ヨコせ、罪ツミ亡ホトし、
おひきん。近チカ所トコロの者モノあ人ヒトと、合アヒを四ヨ國クニに
よ出デるよ。彼カノ殺セし、報カヒせ。伊イ豫ヨの書シヨよ、

佐サ次ジ多タ勝シヨウは、林ハヤシの中ナカへ逃ニゲ
ひたれ。二人フタヒトの連ツレは、果ハテに逃ニゲれ、
ゆりゆり。今イマを、一ヒトつも、佐サ次ジ多タ勝シヨウの
後ノチ。おと、おと、おと、おと、おと、おと、
連ツレ。おと、おと、おと、おと、おと、おと、
おと、おと、おと、おと、おと、おと、
ゆり。将セガレ福フク平ヘイは、

歌るれども。うらむべき始もあつたればせめては、
父が現世未済高生等の苦患を免るる母
とて。一切経を修書せんとしてひまを。うら
鳴る物を残るなくたゞり忌む。お後のの
お命をうけとごまして。うらむく辱と比類
なき。親孝の奇物也。お玉持の辰撒と
江戸中の大評判。まよりの浪花はよきや

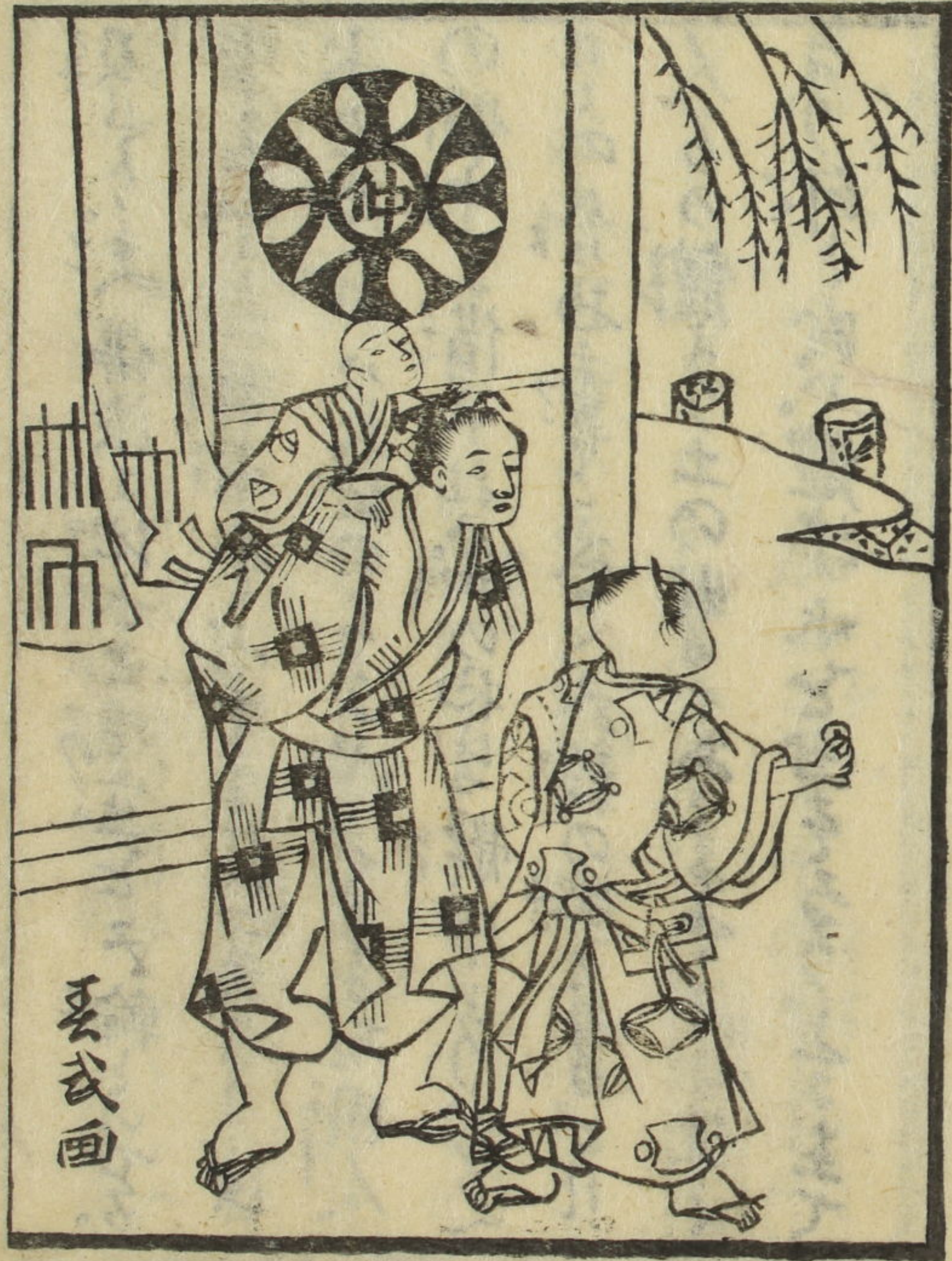
け花咲男。今を辱と嘆やい。花の朝り
匂い洵り。再江戸へ洵り嘆。之を福平也
名なき。お女家の奇物也。お玉持の辰撒も
あつた者なり。お娘とて来と連子あり。お玉
とてうらむ。お人も目おくるふ。お娘とてハ
福平の志と感。仇二と勝が追。お娘とてハ
みかを合さんぬ。空也上人の辨。お娘とてハ

ようと心付ツキ。新念佛ウタチンブツと趣向シュウカウして。六字と
 館子アツ祈りませ。うまひご。うまひ陀佛ダンブツうまひご
 よう祈りの聲カハシメガ唱ウタ。相トウ當ウチ世セの立タテ者モノハ仲孫
 幸サイ四シ良リ之ノ安ヤスく。まてシ建ツ終ウのキ老ラウハ時トキ小
 大谷オホ方カタ女メ末マ末マのヒ見ミ負ネ市シ川カハ堂ドウ十ジュウ良リハ末マ坊ボウ
 又マつツつツのノ親オヤ又キ之シをヲ。年ネンハカあハいハごゴ。善ゼン
 陀佛ダンブツ善ゼン院インと賣ウリ歩アルキ行キョウ。大ダイ淨ジヨウ判パンお祈アガカり

も皆福平フクヘイが孝行カウコウのノ事コト示シ。右ミダ今イマ又マ示シれるル
 肩カ柄カ者モノと懐カキりレバ。新ニ年ネン末マ一イチ圓エンノ香コウ也ヤ。
 ふと後キのノ事コトとシるルものノ也ヤ。いハうウもモ彼カ撒サ客キヤク氣キ
 漢カン先セン年ネン末マ西セイ函フンまでマハハ屋ヤ行キョウしシるルどト。はハなナ系ケイ女メ
 系ケイノ物モノとシるルもモ。千チ後ゴハハ聲オトもモくク臭カもモきキ
 今イマハハ世セるル子シ沙シャ汰タイもモろロ。出デ時ジ法ホウ方ホウまでマ淨ジヨウ判パン
 のノ事コトハ。飛トビんンごゴ靈レイ寶ホウ珠シュノノ事コト也ヤ。十月トウツキ乃ノ

者オレらまで己オレが耻ハととるべし。あるが中ウチめと
險カレ竿サの大オホ高タカり。小コ橋ハシ松マツ江エが英エ都ト、弘コウ法ホウ寺ジ
をスと捨ス。韓カン退タイ之シ。派ハと流リウを。三サン三サン形ゲイ形ゲイを
體カダハ新シン骨コツ車クルマのサらラぐグどドく。子コ孫ソ梅バイくク惡アク
一本イツ松マツハ。又マタ辨ベンを天テンへ釣ツルくと疑ウタガハシム。是コレ等ナラとと
除カクしともトモくべベけれ。何ナニぞや古コき屁ヘ撒シとこと
くクまマ本ホン地チ倍バイ。挫クサる屁ヘの瀟セウ釋シヤクとトびビハハああ

を彼カれレさサてテらラより大オホの出デるル理リをウんンと
しシてテなナまマうウ。江エの外ソトの屁ヘああいいららいい。ささととと
我ワららを屁ヘの如ゴトくクななままとと。ままままああつつく
之コノ後ノチも。そそのノ浅セニ門カド洞ナと和ニぶぶ。多タれれままつつら
より大オホの出デるル理リをウんンととおおななああれれもも一ヒト天テン
四シ海カイ引ヒキららちちてテの大オホ論ロンをウんンとと一ヒト天テン論ロントトガガトト
能コトくク近チカくク望シヤウとといいてテ教キョウんンおお。おおししをを屁ヘ論ロンと



五女圖



五女圖

及オキ下シり。夫レ佛法ハ地チ水スイ火カ風フウ空クウとハ輪リンといふ。
 空クウと風フウとハ新シン用ヨウとて。つまるハ四大シテあり。は
 水スイ火カ去キ氣キハ天地テのニ入ニりテ満ミくルを固コ人ニ
 の體タイ中チウ子シ備ビえルハ四シの物モノ皆ナラ體タイ中チウより出デるニ
 日ニの合カれテ未ミ嘗シと放フ之レ又マ穀コクの肥ヒとある。それ
 人ニるの體タイより土ツチの出デるニあらむニや又マ小便シヤウと
 する汗アセと放フハ體タイ中チウ水スイと出デるニあり。とハ立て

ハ呼吸コキウ下カは立てハ尻シツと号カく。是レ體タイ中チウ氣キの
 出デるニあり。あるニ中チウはも火カとハなるニ萬物マンブツ造化クワシヤ
 の源ネ元ゲンとす。その本ホを大陽ダイヤウと号カく。その末マシを火
 と号カく。日ニと火カの倭ワ訓ニ同シくハも天地テンチ自然ゼン
 の乃ハ神カミあり。されバ神カミは天照アメノミヤを神カミ。佛ブツはハ大日オホヒツル
 如ニ来キ。金剛コンゴウ界カイとハ地上チジョウとハ一イツ胎タイ胎タイ界カイとハ
 地チ下カとハさレ。十ジュウ万マン億イッ土ツチ無ム量リヤウ壽ジュウ佛ブツ。及オ照シヤウ自ジ己ニ

本^{ライクウ}来^{ヒミツ}空^{ゴダク}秘密も悟^{ゴダク}道も引^{マシ}くもめて。は^{マシ}日^{マシ}輪^{マシ}す
まさかれば。去^{タイ}ハ^{イシ}留^{イシ}な體^{イシ}の石。水^{タイ}ハ^{イシ}留^{イシ}な體^{イシ}の
氷^{コウ}るる^{コウ}加^{コウ}。原^{コウ}亦^{コウ}と^{コウ}は^{コウ}ま^{コウ}る^{コウ}る^{コウ}く。魚^{コウ}體^{コウ}を^{コウ}育^{コウ}
べき^{コウ}道^{コウ}み^{コウ}。伎^{コウ}も^{コウ}あ^{コウ}く^{コウ}も^{コウ}在^{コウ}な^{コウ}る^{コウ}は^{コウ}
戲^シ場^シの^シ出^シ来^シざる^シは^シ異^シなる^シ也^シ。か^シる^シ及^シ理^シを^シ知^シ
時^シハ^シ糞^シと^シ成^シも^シ汗^シと^シなる^シも。在^シの^シ出^シる^シも^シ火^シの^シ出^シ
も。同^シ一^シ體^シの^シ小^シ天^シ地^シ。固^シ怪^シは^シ只^シら^シう^シが^シれ^シども^シ然^シ

み^シら^シう^シま^シ山^シ火^シハ^シ燃^シより^シ出^シる^シ火^シハ^シ燃^シと^シなる^シ加^シ怪^シ
ま^シど^シ。あ^シれ^シま^シて^シる^シより^シ出^シる^シ火^シハ^シ飯^シ糞^シ幻^シ湖^シの^シ
如^シき^シら^シん^シ也^シ。又^シハ^シ固^シ候^シ手^シづ^シ會^シ人^シ形^シと^シ一^シつ^シり^シは^シえ^シえ^シ
懸^シは^シ呼^シび^シえ^シん^シる^シ事^シも^シ多^シき^シ中^シは^シ。天^シ文^シ曆^シ數^シ算^シ
も^シ甘^シも^シ吞^シけ^シて^シ就^シを^シと^シら^シず^シ也^シ。即^シち^シ通^シ達^シさ^シる^シ
人^シら^シハ^シ。同^シ一^シ骨^シあり^シて^シ各^シの^シ事^シも^シあ^シり^シ。人^シ乃^シ
分^シ量^シ智^シ恵^シの^シ福^シと^シあ^シら^シざる^シ人^シハ^シ。僅^シの^シ益^シとい^シひ

之よ。此の^シを^キる^ハ信人者や。日^ノ月^ノ流^ルる^ハく^レ。
雜劇^ガの^キ者^ハ同^ク松^ノよ^クん^ノ信^ノら^ズん^ノ信^ノト。凡^ソ。
天^ノ地^ノの^ヨり。火^ノを^キき^テお^クる^ハく。火^ノの^光。
と^目の^前に^映る^ハ。多^クし^キて^ル。わ^カら^ズん^ノ信^ノト。

又^キ者^ハ 日本

神武帝より今年まで二千四百三十九年死
で生くる入替る人を数かぞへておれどま

大勢の人るの。あ^らざ^らぬ^ハと^極んと^毒を^食ふ^ハ。
破^レり^の 祿^ヲと^捨て^テ 工^ノま^と 凝^リし^テ 今^ノ 派^と 買^フ。
工^ノ せ^らる^ハ 其^ノ け^しき^を して^テ 今^ノ 派^と 買^フ。
傳^ノ 序^ノ よ^ク 其^ノ 者^ヲ 物^ト して^テ 今^ノ 派^と 買^フ。
世^ノ の^ノ 為^ニ 骨^ヲ と^おす^ハ。世^ノ の^ノ 為^ニ 山^ノ 原^と 隣^れ ぬ^ハ。
氣^ヲ 捕^ル 猫^ハ 爪^ヲ を^かく^ハ。世^ノ の^ノ 為^ニ 山^ノ 原^と 隣^れ ぬ^ハ。
自^ラ 其^ノ 面^ヲ 奴^レ 子^ト 却^ル 山^ノ 原^ハ 今^ノ 派^と 買^フ。人^ハ

藝と云く山の足代と。赤ハ山子似るとして
養の助とん。彫とと隠とと。御ハあ人餅と
あんころ餅の赤小豆の如し。まあと合と和く
とあく。是までの粉力で一湯子合と和りて凝
て。一生懸鼠する妙を歎又と成生瓜ハおれて
も。握とら合と和りて。後ハ料子ある通。後ハ
空とを和とべと。人ハ無れ赤と。後ハ

も絲瓜も瓢箪も。沉香も林檎も。屈も撒らば。
上手名人といふハ拍子。下手といふも養も
合と居とと疎と起と。死と下で残るお
ハ骨と礼文と。うらりと。うらなると。ちも
ど。は出ると。とるの清の煙ハ拍子。拍子
が盤魚と養と。うらと。うらと。合せても。合
れよと。うらと。時ハ。盲で。うらと。金。出ま

ざらりものもあるまじく。近タ例タハ忘れきてる故。
支玉ウ浅シ草ソへんせおよ出デ付ツハ。押オシへ付ツる
大令ダイレイ。豪コウ猪シ綿メン羊ヤウるんどの例レイもあつと。古コびる
者モノも多タりれど。法ホウ陽ヤウの理リとおもモ。物モノと勿モウ辨ベン
るしシ合ガ点テンせシ。されレババ子シハハ飴アメとトんンとト老
とト出デんンとトのノ。盗トウ路ロハハ錠ゼツとト明メイんンとトのノ。
それレおオ取トのノうウ。あアハハ綿メン羊ヤウとト目メとトく

日本ニッポンふフてテ産サン物モノらラをヲしシてテちチちチとト出デんンとトのノ。
とトうウちチんンへヘとトあアんン。さサるルセセ毛モウ種シュ類レイのノ毛モウ織オリと
織オリをヲ外ガイ國コクのノ織オリとト結ムスぶブ。用ヨウにニ給キウんンとトんンとト織オリ
きキ。人ヒトハハ手テ経カよヨ残ゼニをヲせセ。んンとト付ツるル。いイまマ拍パク
ひヒまマ畜チク物モノとトやヤとト毛モウとト織オリとトくク。家ケのノ養ヤウ
もモうウのノ物モノとト。らラとトやヤちチんンとトあアつツとトまマいイるル名ナ
とトつツけケ。給キウにニてテ幣ヘイとト結ムスぶブちチらラしシ。引ヒキきキのノ口クチ

て耻^チとさういふ。綿羊^{綿羊}の手ある。氣毒^{キドク}あり。世よ
あり人の浅^チをやり。残りなき若^イの地^チをさう。
濁^チしるも盗泉^{トウセン}の水を飲^クむ。及びで南^{ナン}瓜^カの
唐^{トウ}女^{ニョ}かき。いづるユまふ令^{レイ}証^{シヨウ}と。昔^{コト}はあま
残^ゼ肉^{ニク}あり。丈^シ。懸^{ツラ}惟^ホ。骨^{ホネ}とれく。残^ゼる。ハ。酒^{サケ}賞^{カウ}
く。尻^シ切^キる。古今^{コキン}を奴^ヌの太^{タイ}だけ。尻^シの中^{ナカ}あ
とく。是^{コト}なるん。さういふをれまると入れま

つると名^ナとがへ。あも三^{サン}國^{コク}福^{フク}平^{ヘイ}が子^シとなり
故^{コト}々^々をかさうて。四^シ國^{コク}撥^{ハツ}平^{ヘイ}と改^{カイ}名^{メイ}。尻^シ撒^サ
氣^キの仲^{ナカ}回^ヘ入^イ。羊^{ヤウ}連^{レン}中^{チュウ}と系^{ケイ}令^{レイ}しる。尻^シの
穴^{アナ}のあらん。尻^シり。撒^サり。尻^シをさうとあるなり
臭^{ニホ}ひ若^{ニホ}の身^ミあつた。以^{ヨリ}来^キ口^ク相^{ソウ}捨^シやさるべ
と。尻^シ撒^サて後の尻^シまふ。まふあまあつた
いひんを。新^{シン}買^{バイ}妻^{サイ}のあまは。尻^シまて。尻^シ角^{カク}

是ハ古方家コウカカ又下タサセむハ肝積カンシクハるあり
まいと。此コノぶやきるぐろ海ウミと云く。賊マシらぬ
後ノチハ笑ワタまらむ。

放屁論後編終

追加

去キ申マシの氣キ。菅原スガハラ柳ヤナギと云くと云出イデ。世ヨは
くろ時トキ。婦人メノヒトよりむねをぬぐ。その返マカは、
を安やすまらむ。

用モチわれハ菊キクの子コも上カミ尖トビ竿ササをおわえ。用モチわれ
ハ虎皮コノヒ禪ゼンも地獄ジゴクの古コ意イ店テン又釣ツリさると云く。
昔ムカシの唐人テイジンの癡語チゴ。去キ突ツクく呵カらむと云く。なむ
又マタさらうが快クワイハ人情ニヤウあれハ。虚言ウソと追ツイ後ノチ也ヤ

といふは。人當世とあはれといふ。抑は當世と
いふもの今も有り。あはれは。祝鮫が倭育て
宋朝が美あはれんを難乎今の世は免れん
とあはれは昔よりあるの當世として。八百
が助六は拍延が助六なれども。人今更の世は
も片後と。あはれは當世とあはれは
あはれとも。万人の盲より一人有眼の人と

あはれ。倭も返後軽信といふがれば。時あはれ
は。あはれ。されとも人と生れ。真加の馬
國恩と報えんものをあはれんと。世人稱
して山原といふ。予戲く曰。智恵ある者。智恵
ある者と。儻はる。麻といひ。たけと。あはれ
といひ。あはれといふ。あはれ。あはれ。あはれ
あるものと。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

山脈くと深きより外なり。又造化の理を言
んが者抱ふんを引く。人亦と本著と
号。草澤野人の下細工人の扱ふんは、已に
のむぎ書又海返書や小説や尚且バ込招用書
自笑其蹟が類とんは、火院布ぬれまてるの
奇物とユバ、竹田近江や、夜脚と十把下かき
のさひとくして変化物の如きすとあはれ我

ハ只及むるが。日本の益とるさんすとあ
の。或ハ適大徳侯のみ、徳りしむとも。玉家
の天益あまきよ。もあはれども。救免死しとく
良狗烹られ。もやのらとく。はらう。細子負之
人室。嗚呼。為ひく。糸耳垂珠と悟を聞き。
ろ命とほろく。當時。其内職と。其
糟とくひを。後とせ。せんともひ。附とす。

卯雲木室君ウツクモキミは尻尾シビを見出されおろろけり

お被カよ

醉ヱラて身ミく小る拙ツツる世セのおて際サヘハ

仕出シし乃ノ掃ハも中ナカの管ツバあり

突ツクや已イと去クるる屈クく。已イと知チるる伸ノビ

とちんトバ。此コノ合カヤさんサンとてト分ワるる八百ヤチとせ

ちチもモ固カタ己ミと知チるる人ヒト見ミせるるああららむむ。

嵐アラシ者モノハが日ヒ。ア、氣キが遠トホくくなる。

かかるる時トキ何ナニと千里センリ乃ノここははままののや

伯ハク樂ラクもああららむむ小こつつひひももああららむむ

風來山人誌

